

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200486		
法人名	地域福祉研究所有限会社		
事業所名	グループホームほなみ		
所在地	福岡県飯塚市枝国430番地2		
自己評価作成日	平成23年1月18日	評価結果確定日	平成23年2月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

起床から就寝までの1日の生活リズムがしっかりしており、生活習慣を崩すことなく健康が保たれている。また、地域活動に積極的に参加する事により、事業所が地域一員となるだけでなく、入居者自身も地域住民の一員としての意識が高まっている。1日に2回の散歩を行っており、良い気分転換となっている。また、この散歩が入居者にとって良い運動兼リハビリとなり歩けない状態から歩けないようになった入居者も多く元気で楽しく暮らしていく1つの要因となっている。年間行事も多く事業所全体で取り組む運動会や夏祭り、クリスマス会等1つひとつに力を入れており、職員と入居者が一丸となり、毎年より良いものを作り上げている。整理整頓清潔を職員が常日頃から徹底しており、入居者にとって住みやすく清潔な環境を維持している。理念に基づいた環境作りを常に心がけて頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・体調不良時や荒天時を除き、暑さ、寒さを肌で感じながら、1日2回の散歩が日課となっている。買い物や地域活動とも組み合わせられ、食後にはリビングでも機能訓練が行われており、心身の活性化に向けた取り組みが充実している。地域行事である「歩こう会」には多くの入居者の方々が参加、完歩されており、男女それぞれの最年長者として表彰を受けている。・個々の職員に応じた外部研修参加の機会が多く、研修報告書及びミーティングにおいて共有されている。看護師である代表者は、観察の視点を明確に指導しながら、一人ひとりの入居者の健康管理やニーズの抽出へとつなげている。・自治会に加入し、地域住民のサポートの中で日帰り旅行に参加したり、地域住民として健康相談会に出向いている。玄関ホールには、地域情報が掲示されており、積極的に地域行事、活動に参加している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差して安心・安全な生活。元気で楽しい生活。家族と同様。」という地域密着型サービスの意義をふまえた独自の理念を管理者と職員全員、入居者様とで毎朝唱和することにより実現に向け取り組んでいる。	朝礼時には、入居者とともに理念を唱和している。また勉強会でも理念についてふれ、その意味の共有、実践につなげている。入居契約時には家族へも説明を行い、浸透を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、定期的に行っているリサイクル活動やゴミ拾い、健康相談会や敬老会への参加、老人会、婦人会、町内会の日帰り旅行への参加など孤立することなく地域の一員として地域の方との交流に努めている。	町内会に加入しており、地域住民のサポートのもと、町内会主催の日帰り旅行にも参加している。またリサイクル活動や散歩時のごみ拾いを継続している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で行われている作品展や夏祭りなどに来訪して頂き交流を深めている。また入居の相談や在宅で認知症の家族と同居されている方の相談などがあればゆっくりと話しを聞き今後の事についての相談なども受けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会議では、地域との交流・連携や事業所の理解を育む場として会議を有効活用している。防災対策などでは消防署の職員の方に参加して頂き、地域の交番の警察署員の方にも出席を得て有意義な話し合いが行われている。	運営推進会議には、入居者が参加する機会も多く、自治会長、民生委員、行政担当者、消防署員、警察官等の参加を得て、定期開催されている。玄関ホールには、議事録が掲示されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の困難な事例への対応について、地域包括支援センター、市介護保険課と協働している。又、解らない事などがあれば介護保険課に問い合わせるなど協力関係を築いている。毎月1回の介護相談員を受け入れており、交流会にも参加している。	運営推進会議には、行政担当者の出席があり、また、飯塚市の事業者交流会や研修にて交流の機会もあり、意見交換や情報の共有に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	佐賀より講師を招き必ず職員全員で受講している。事業所内での対応等の検討をし防止が出来ている。	外部講師を招聘し勉強会を行ったり、社会福祉協議会等で行われている外部研修にも参加し、報告書作成による共有が図られている。日中は施錠していない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、毎年必ず研修を行っている。昨年は佐賀県介護保険総合ケアセンター シオンの園から講師を招き入居者様のご家族も含め職員全員で研修を行い事業所内での虐待の見過ごしがないように努めている。		

福岡県 グループホーム ほなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を利用されている方もおり、嘉飯山地区協議会や社会福祉協議会主催の研修へ参加している。毎月の全体研修の中でも取り上げ職員全員の意識を高めている。裁判所へ訪問し実際の手続きに関する説明を受けたり、司法書士との連携も行っている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、現在制度活用に向けた支援も行っている。外部研修への参加等により、職員全員の意識を深め、また、家族会等にて説明を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際には、事業所の理念を正確に伝え理解して頂けるよう努めている。利用者やご家族が何か不安や疑問点がある際には十分な話し合いを行い納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回家族会を開催し、意見交換を行うと共に、利用者や家族の要望、相談等を受けられる機会としている。時間がとれないご家族には個別に相談を受ける説明を行っている。利用者だけではなくご家族とのコミュニケーションも大切にしている。	年3回の家族会では、食事会等を企画し、コミュニケーションを大切にしながら、意見や要望を伺う機会を設けている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行っているミーティングでは、代表者と職員全員が参加し、様々な意見の交換や伝達を行い施設の運営の中で反映させている。	全職員の参加する毎月のミーティングでは、必ず一人一言は発言の機会を設けている。入居者の意向を踏まえた行事等でも、各職員の企画やアイデアが採用されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個人面接を行い要望や働きやすい環境づくりを行っている。又、職員研修も広くリーダー研修参加までを目標とし向上できる支援を行っている。その他では看護師・ケアマネ・介護福祉士等の国家資格等も目標、支援を行っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、本人の働く意欲を重視しており、年齢や性別等による排除は行っていない。本人のやる気と人柄、能力が見合っていれば採用し他の社員と分け隔てなく対応している。また、資格取得や研修参加を積極的に支援している。	年齢や性別、資格等による排除は行っていない。採用後も資格取得や外部研修への参加を積極的に促し、スキルアップをサポートしている。個々の得意分野を大切に、また入居者の方々との関わりの中で成長させていただくことや、身につけていくものを、活かせる人材を求めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	嘉飯山地区協議会や飯塚市主催の人権研修に参加しており、ケア会議等にて職員全員に伝達し、また具体的な事例をもとに話し合いを行う等意識を高めている。	行政や社会福祉協議会、嘉飯山地区協議会等の主催する研修に参加しており、様々な視点から人権教育に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム ほなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に応じた研修を予定し、毎月様々な内容にて実施している。外部への個人研修の参加や内部での全体研修及び認知症ケアに関する研修も行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとの充実した連携を研修実施につなげている。また、しないのグループホームとの交流もあり、情報交換や相談等も行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	理念にも掲げている「家族と同様」という関係性の中で入居者一人ひとりに寄り添い、耳を傾け、その方を受け止めるよう努めている。また、納得し安心して頂けるよう対応している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者だけでなく家族にも納得し、安心して頂けるよう不安や要望に耳を傾け来訪の際には、状態報告を行い、それに対しての話し合いの場を設けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が事業所指針を内容についてしっかりと納得、理解して頂ける様何度も見学に来て頂いたり、話し合いの場を設けている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりに様々な役割を担ってもらいながら、また、職場と一緒に作業を行うことによって力を発揮する場面づくりを支援し達成感を共有している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行している事業所便り「ほなみ通信」にはその月の行事や職員のメッセージが記載されており、それにより本人の状態状態把握を行うことにより共に本人を支えていく関係作りにも努めている。又、1カ月の状態観察、入浴、食事の量、内服状況等を交付している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に訪問された際には、居室やホールにてお話ができる環境をつくっている。ご家族との買い物や墓参り、外食等を行う等支援をお願いし実際行っている。	ドライブの途中で自宅周辺まで足を伸ばしたり、昔の音楽を聴きながら思い出話を伺い、共感する時間を大切にしている。家族や知人、同僚であった方と、居室にてゆっくりと過ごせるよう配慮している。	

福岡県 グループホーム ほなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年間行事を多く取り入れており、利用者一人ひとりを把握しながら行事ごとの出し物を全員で行ったり、レクリエーションは歌や貼り絵、書道等出来る事、又作業では洗濯物干しやたたみ、モップかけ、畑の手伝い等、利用者様に応じた生活支援をしている。1人ひとりが孤立することなく過ごせるよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたあとでもご家族が訪問されたり、相談のお電話を頂いたりする。必要な内容に応じての支援を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	15時のおやつの時間を初め、1日2回の散歩の時等、入居者との関わりの時間は多くあり、1人ひとりの方と職員全員が話し合う場が設けられている。又、困難時本人との意思疎通が出来る方は本人の意向にそって、出来ない方は状況把握を助言しながら行っている。	「ひもときシート」を活用した取り組みが始まっており、パーソン・センタード・ケアの視点から、個別の課題を捉えるべく取り組んでいる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎月1回1人の入居者の介護計画を順に行っており、今までの経緯や今の現状、これからのこと等詳しく職員全員が話し合う場が設けられ、本人らしい生活支援が行える努力をしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で入居者一人ひとりの暮らしのリズムや心身状態を把握できるよう毎月1回行っている。ミーティング時だけでなく、常に情報交換し、業務日誌やカルテ等で把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひもときシートを活用したケア会議にて入居者様自身がより良く暮らす為の課題を検討し、スタッフ一人ひとりの意見やアイデアを反映できる介護計画を作成している。	家族訪問時や家族会の開催時等に、家族の意向を確認している。ADLと活動性を高めていく視点を重視しており、今後の「ひもときシート」の活用により、認知症へのアプローチも期待できる。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとりの現状を記入していくカルテがあり、日々の生活等について個別に記録しており職員間での情報共有の1つとして活用。何か変化があればそれを基に対応や計画の見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム ほなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人グループホームとの連携により、合同行事(運動会、夏祭り、クリスマス会等)を行い多彩な地域や家族との交流の機会となっている。例えば利用者様が具合が悪く、今病院受診の必要性があれば即受診、落ち着きがなく外出してウインドウショッピング、畑の作業等、その時々への対応を心がけている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の活動、防災センターでの防災訓練、警察の方とのコミュニケーション、住民の方々との支援等があり安心・安全な生活が出来ている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の2週間に1回の往診があり、充実した連携体制が整備されている。日頃から職員が入居者の現状を把握し適切な医療を受けられるよう努めている。また緊急時の対応についても体制を整えている。	協力医による2週間に1回の往診があり、歯科医についても毎週の往診体制がある。本人、家族の意向による受診にも、柔軟に対応している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が毎日勤務及び訪問看護も受けている。お互いの情報交換を密に行い看護も充実している。毎朝、職員全員が申し送りを行い、情報交換を必ず行うことにより、適切な対応、素早い対応に努めている。それにより適切な受診や看護を受けられる環境づくりに取り組んでいる。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入居者の入院時には医療関係者との連携により早期退院への働きかけを行っている。また、退院後は元の生活ができるよう、かかりつけ医との連携を行い回復に努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医との十分な話し合いを繰り返して、本人、家族の意向を大切に支援を行っている。看取りも行っている為、安心して過ごせる方針を共有する為に医療関係者や家族、職員間での連携に努めている。	入居時に重度化した場合についての説明を行い、同意を得ている。本人の暮らしの中での言葉や家族の意向を踏まえ、状況の変化に応じて医師を交えた話し合いを重ね、方針を共有しており、これまでに看取りを行った経緯もある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて職員間で対応の仕方についての情報交換をしたり、看護師や管理者からの指導を受けている。また、個別の研修に参加することにより、実践力を身に付けている。またマニュアルもある。		

福岡県 グループホーム ほなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政や地域の自治会・消防署・警察署との連携を図り、定期的な訓練を行っている。また、防災センターでの入居者、職員全員の研修を行い、災害時への対応についてより良い体制づくりに努めている。	自治会や消防署、警察署、近隣の同法人グループホームとの連携を図りながら、年2回の訓練を行っている。公民館の協力により、地域に向けた案内放送も実施されている。入居者全員も参加する防災センターでの地震体験や、水害時を想定した事例検討も行われている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修の中に認知症の方々への対応や個人情報保護等の様々な角度からプライバシーの確保に関する内容を盛り込んでいる。記録等、個人情報については十分な配慮を行っている。	内外の研修参加により、様々な視点から認知症への理解を深める取り組みが行われている。記録等、個人情報についても事務所に管理、保管されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や状況に合わせて、毎日2回のホーム周辺の散歩が日課として行われており、地域行事である「歩こう会」への参加を目標としたり、食材の買い物や外食等にも出かけたりにしている。個々人の買い物等、その時々自己決定できる状況が日々多くある。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを職員全員が把握することにより、その日の希望、状況に応じた心がけ、無理強いとならないよう柔軟な対応、配慮に努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔が保てるよう職員が十分に配慮し、入浴時の着替え等は、本人に選んで頂くことによりその人らしさ身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物と一緒に出かけたり、食器洗いをする方やテーブルを拭いたり等、1人1人に応じた力を発揮してもらっている。また、口腔体操時に1人ひとり好きな食べ物を言ってもらったりして好みを把握している。	代表者の実家やホームの菜園で収穫された、地元の米や野菜を使用している。また外出時や外食時には、メニューの中から好きな物を選んでもらい、選択する楽しみも確保している。日々の食事メニューを写真に残し、玄関ホールに掲示している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物の量や栄養バランスについては、その方の体重や体調を見ながら状況に応じて対応している。また、一日の水分摂取量を記録していくことにより水分量の確保に努めている。		

福岡県 グループホーム ほなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行うようにし、口の中の汚れや臭いが生じないようにすることはもちろん、摂食や嚥下リハビリとして疾患予防やADLの維持向上に向けた取り組みを行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向け、2時間毎のトイレ誘導を行うことにより、排泄の失敗等と軽減し、排泄はトイレで行うという行為についての認識も図っている。	暮らしのリズムを大切に支援が行われており、個別の状況や排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの排泄状況を把握し、便秘の可能性がある場合にはその都度、働きかけを行い、また、水分・食量・運動を行うことにより予防へとつなげている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週3回の入浴日の設定はあるが本人の体調や状況に応じて、曜日や時間帯、タイミングに配慮して柔軟に対応を行っている。	2ユニット交互に、週3回の入浴日を設定しており、希望や状況に応じて柔軟に対応している。温泉日帰り旅行や、近隣の福祉センターで入浴を楽しむこともある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が入居者一人ひとりの把握を行うことにより、その時々状況に応じた対応ができるよう日々努めており、毎日安心して眠って頂ける様支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりが服用している薬に関して、職員全員がその内容を把握し、理解しており、服薬後の支援や症状の変化にも素早く対応している。内服薬の勉強会も行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの畑での野菜作りや洗濯物干し等、1人ひとりに合わせた力を発揮できる場面づくりを支援し、心身の活性化につなげている。また、毎年参加している「歩こう会」や「敬老会」・施設運動会、夏祭り、クリスマス会のイベントは入居者の方の楽しみの一つとなっている。		

福岡県 グループホーム ほなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の利用者様も年々高齢化し、月1回の外出は楽しみにされている。それぞれの希望の場所選びは利用者様である。その他毎日2回のホーム周辺の散歩が日課として行われている。地域行事である「歩こう会」への参加を目標として頑張っている方もおられ、気分転換の場ともなっている。厚さや寒さを肌で感じながら季節に応じた外出も入居者の楽しみとなっている。	毎日2回の散歩が日課となっており、買い物や地域活動も含め、個別の移動の手段にも配慮しながら、日常的に外出している。入居者の意向を踏まえ、職員間のアイデアをもとに外出行事が企画されており、日帰り温泉旅行や近隣の福祉センターの活用等が行われている。町内会の日帰り旅行や、地域行事の「歩こう会」参加等、外出の機会は多く、特筆すべき点である。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、近くのジャスコやスーパーに出かけ、上限の金額設定はあるが、入居者様の欲しい物を自由に選び購入していただいている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人と家族の関係を大切にすることも、定期的な関わりの場をつくることはもちろん、電話や手紙を気軽にできるように支援している。また、家族にもその事に関しての理解や協力をお願いしている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間を自由に行き来することができ、見通しのよい広い廊下は、天候や気候により運動コースにもなり、高い天井とともに開放的な空間となっている。掃除や換気も常に行っており、ソファや椅子が配慮され思い思いに過ごせる環境となっている。	入居者とともに掃除が行われており、共用空間は清潔感がある。定期的に15分程度の換気を行い、新鮮な空気を取り入れている。入居者、職員にて共同制作された地域マップが掲示されており、散歩の際等に撮られた写真も掲載されている。食後には至る所で個別の機能訓練が行われていた。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に配置されているソファや椅子は自由に過ごせる場となっており、2つのユニットを自由に行き来できるため、自由な時間を過ごせるようになっている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に配慮している筆筒や家具、布団、枕、時計等は使い慣れたものが持ち込まれており、本人が居心地よく安心できる環境にしている。	使い慣れた家具や大切な品々が持ち込まれており、安心して過ごせるよう配慮している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に解りやすい様建物内部のトイレやキッチン、お風呂場、洗面所等は入居者様が過ごしているホールから見える位置に配置されている。自立にむけて取り組みやすい環境となっている。		